

# ラベンダー通信 Vol.6

編集・発行 PTA広報委員会



松前重義記念基金 建学記念 論文優秀作品による奨学金



学園オリンピック(理科)



中等部3年 オーストラリア語学研修



中等部 バスケ部



炊事遠足

2012/07/06



インターシップ

※ラベンダーの写真は東海大学札幌キャンパスに咲いたものです。

# 「手段と目的」



東海大学付属第四高等学校・中部部  
PTA 会長 米花 正浩

最近、ビジネスコンサルタントの方のブログを読んでいて、いろいろ感じる事が有りました。それは、我々が生活をしている事柄の中で、手段と目的が一緒になってしまっているんじゃないか、手段が目的

になってしまっていないか、ということです。

我々は、日々生活をし仕事をしていますが、その目的は「自分も家族もそして周りの人も幸せになること」だと私は思っています。決してたくさんのお金を稼ぐことが目的ではありません。でも、仕事をしていると、ついつい売上利益を上げることが、目的になってしまいます。それは、あくまでも目標であって目的では、ありません。(でも、非常に大切なことです。)

学校と自分の子供を見てみると、試験の点数、大会の成績などなど、気になってしまって、ついつい手段が目的になっているような気がしてなりません。試験の点数が低かったとき、大会で負けてしまったとき、この目的がはっきり自覚できていたら、もう少し良い時間を過ごすことが出来るかもしれません。もう一度、保護者(もちろん私も含む)も先生も何が手段で何が目的なのか、再確認してはどうでしょうか？

## 厚生委員会

### 厚生委員会の活動報告

平成24年度の活動は、エコキャップと廃油の回収と仕分け(分別)作業が、主な活動でした。前年度からの持越しのキャップと合わせて全部で30袋(221.6kg)をNPO法人に届けました。今回は95,266個(ワクチン110.8人分)となり、過去5年間の分と合わせ、累計で445,226個(ワクチン548.2人分)になりました。これを、CO<sub>2</sub>量に換算すると3453.8kg分になります。ゴミとして燃やせば、これだけの量のCO<sub>2</sub>が発生することになります。お忙しい方でも負担が少なく気軽に参加できる活動ですので、来年もたくさんのご参加をお願いいたします。

みなさんからの、ほんのちょっとした「愛」のお手伝いが嬉しい♪

ペットボトルのキャップは、**汚れを落として、シールは剥がしてから回収箱へお願いします!!**

分別作業が短縮されると、もっと多くのエコキャップをNPO法人に届けることができますので、ご協力をよろしく願いいたします。

エコキャップ430個で10円!  
**ポリワクチンは一人分20円**  
20円で一人の子どもの命が救えます!



## 文化委員会

### 文化委員会の活動報告

2月20日(水)教育文化会館にて、大阪府立淀川工科高校吹奏楽部顧問の丸谷明夫先生を講師にお迎えし「子どもが輝くとき」をテーマに講演会を開催致しました。「全日本吹奏楽コンクール」では全国最多の金賞受賞に輝き、吹奏楽界で知名度No.1の丸谷先生は、一流の指揮者であるとともに一流の教育者であると感じました。ユーモアを交えたトークに聞き入り、校内外から参加していただいた皆様と、充実した時間を過ごすことができました。



# 四高生としての誇りを胸に、自信を持ち夢と、目標に向かおう!

## 櫻田義人先生奥様(櫻田桂子さん)インタビュー

平成24年6月24日(日)、東海大学付属第四高等学校・中部部生を温かく見守りご指導くださった櫻田義人先生がご逝去されました。櫻田先生を偲んでご家庭での櫻田先生について奥様の櫻田桂子さんにお話を伺いました。

### Q ご家庭では先生はどのような方でいらっしゃいましたか?

A 家でバレーボールの話を自分からすることはありませんでした。

お酒が入るとたまにバレーボールの話をしてくださいました。勝った試合の後は、必ず「試合に勝ったよ!」と電話をくれました。負けた試合には連絡は無く、勝った時の喜びは大変大きなものでした。主人は、四高バレー部を心から大切に思っていました。辛い話は一言も言わない人でしたので重圧と責任感、私の想像以上だと他の先生から、伺って知りました。家ではバレーについての大変なことを語ることはありませんでした。新婚時代から、四高バレーが中心の生活だったので、家族旅行はほとんど行ったことがありませんでしたが、数年前に親戚の結婚式がハワイで行われたので、家族みんなで出席したのが良い思い出になりました。それが、最初の旅行らしい旅行です。その旅行中の思い出の一つは、主人の手作り料理です。主人は人ごみが好きではなかったのですが、みんなショッピングに行ったり、遊んでいる間に、宿泊先のコンドミニアムのキッチンで美味しい料理を作って、ご馳走してくれました。旅行と言えば、主人が定年したら、大四高校バレー部の試合を日本国中一緒に応援旅行しようね!と楽しみに話していたのが、昨日のこのことです。本当に忙しい毎日の生活でしたが、時間を見つけては、私たち家族のために、本格派の料理を作ってくれました。例えばラーメンを作るのにも本格的で、市販のスープは使わず、スープ作りもいろいろな素材を使い時間を掛けてお店では食べられない愛情いっぱい美味しいラーメンを作ってくれました。私が作るよりも、何倍も、何倍も美味しかったですよ。時間が出来れば家族のために時間を使い、子供達の成長を楽しみにしているお父さんでした。

### Q 奥様から見て櫻田先生はどのような方でしたか?

A バレーボールに人生を賭けていました。婚約時代からバレーボール指導の情熱は知っていましたので、休日があり無いことや、遠征試合で家を留守にすることが多いことは理解してました。いつも四高のバレー部そして四高生を気に掛けていました。卒業生からの連絡も多く、大学の就職活動が始まる頃はよく相談にのっている様でした。バレー部員の卒業後の進路も心配していましたが、それよりも大学卒業後の進路を特に気に掛けていました。身内ながら、主人は人としても、教育者としても尊敬できる人でした。体調を崩してから、常に前向きで弱音は一度も聞いた事ありませんでした。病人扱いされることも好きではなかったのですが、体育科の先生にも入院時に「悪いところを直して帰って来ますから。」という感じで入院をしました。そして、それから復帰してまたバレー部の指導の計画や、将来の後任の松田先生への引き継ぎも意欲的に考えて語っていました。夢半ばで旅立ったので、心残りだと思います。

### Q 奥様から四高生にメッセージをお願いします。

A 主人自身、四高出身者ですから、四高は大好きでした。このように話しているのを聞いたことがあるので、それをメッセージにさせていただきます。「四高生は、四高生として、しっかりと誇りを持ってほしい。また運動・勉強それぞれ自信を持ち夢と目標に向かって欲しい」と言っていました。

### インタビューを終えて

ドアを開けると「こんにちは、お忙しいところありがとうございます。」と櫻田桂子さんが、温かく迎えて下さいました。素敵で気さくなお人柄でいらっしゃるの、お話しも楽しく何うことができました。家に入ると温かな雰囲気のご家庭でした。そして見たことも無いほどの沢山のバレーボールに関するトロフィーや賞状が飾られていました。改めて現役時代は優れた選手、そして優れた指導者でいらしたことが一目でわかりました。お元気でいらした頃は卒業生からの誘いを受けてご自宅と一緒に酒を嗜めたこともしばしばだったそうです。そして先生の御葬儀には、全国からバレーボール界の方々や卒業生が駆けつけて参列したそうです。「ご自宅にお参りさせてください。」と櫻田先生のクラスでもバレーボール部OBでもない卒業生も訪ねて来たそうです。その話を伺って、櫻田先生は東海大学付属第四高等学校の高校生・中学生そして卒業生に尊敬され、慕われていらしたことが手に取るように分かりました。在校生そして特にバレーボール部員の悲しみは大きなものだと思いますが、櫻田先生の「四高生としてしっかりと誇りを持ってほしい。運動・勉強に自信を持ち夢と目標に向かってほしい」という言葉を思い出して毎日を大切に過ごして欲しいと思いました。

櫻田先生のご冥福とご家族のご健康をお祈りいたします。櫻田桂子さん、インタビューをお引き受けくださってありがとうございました。

### 日本一の「ありがとう」を伝えたい

男子バレーボール部監督 松田 修一先生

櫻田先生には言い残したことがたくさんあります。僕自身、高校生のときは見本になるような生徒ではなく櫻田先生にたくさん迷惑をおかけしました。大学も櫻田先生のお導きのお陰で、今の自分があると思っています。たくさん「ありがとうございました」を言わせていただきたいと思います。そして今の自分にできることは、一つだけ。櫻田先生が守りつづけてくれた「東海大四バレー部」のブルーのユニフォームを全国大会で日本一の輝きを放たせることで、天国の櫻田先生へ日本一の「ありがとう」を伝えたいということです。

### 亡き櫻田先生への今の想い

男子バレーボール部 部長 菅 真沙貴

櫻田先生が亡くなられてから少し月日が経ち、男子バレーボール部一同、あの日の悲しみを乗り越え、現在は3年生としては最後の大会となる「春高」に向け、日々練習に励んでおります。しかし、今も尚思うことは、「先生が今のチームを見たら、何を思うだろうか」その思いだけは、やはりキャプテンとして誰よりも強くあります。ですが、先生にキャプテンという役割を任されてから今現在まで、男子バレーボール部を率いて来て、チームは今最高の状態に仕上がっており、そんなチームを僕は誇りに思っています。先生もきっと「良いチームだ」と言ってくれていることでしょう。そんなチームと共に全国大会にて優勝するためにも、日々の練習を全力で励みたいと思います。

## 櫻田義人先生の略歴

生年月日 昭和31年8月27日

### ■学歴

昭和44年3月 札幌市立豊水小学校卒業  
昭和47年3月 札幌市立中島中学校卒業  
昭和47年4月 東海大学付属第四高等学校入学  
昭和50年3月 東海大学付属第四高等学校卒業  
昭和50年4月 東海大学体育学部体育学科入学  
昭和54年3月 東海大学体育学部体育学科卒業

### ■選手歴

中学3年時 全道中学校大会: ベスト8  
高校1年時 全国・インターハイ・国体: ベスト8  
高校2年時 全国・春高: ベスト16、インターハイ: ベスト8、国体: 準優勝  
高校3年時 全国・春高: ベスト8、インターハイ・国体: 優勝  
大学2年時 1部昇格、インカレ: 準優勝  
大学3年時 関東リーグ秋: 優勝、インカレ: 準優勝  
大学4年時 インカレ: 準優勝  
北海道教員クラブ 昭和54年~平成元年  
主な成績 平成元年 はまなす国体 第3位  
昭和57年 教員選手権 第3位  
昭和58年 教員選手権 第3位

### ■指導歴

昭和54年4月 東海大学付属第四高等学校 男子バレーボール部 コーチ  
昭和58年4月 東海大学付属第四高等学校 男子バレーボール部 監督  
全国大会成績  
春 高: 優勝3回、準優勝2回、3位3回  
インターハイ: 優勝2回、準優勝2回、3位2回  
団 体: 優勝1回、準優勝2回、3位3回

# 茶道部

茶道部

山田 宗節 先生



山田先生は本校創立の翌年の昭和40年より48年間にわたり茶道部のご指導にあたっておられます。当時はご自身の師匠の助手として始められ、今現在は山田先生の助手を務められる先生と20名の部員の指導をされています。

山田先生は13歳より裏千家を習い始め、今日も「勉強は死ぬまで、生徒から学ぶことが多いんですよ」と優しい笑顔でおっしゃいます。

総合芸術である茶道から、礼儀作法が自然に身につく指導を心がけ、芸の奥にありがとう、ごめんなさいなど、気持ちを伝えられることが多くなるようです。

日本の美しいマナーである、お辞儀の文化が消えてしまわないように、楽しく活動する中から文化が継承されていくことに力を注いでいらっしゃいます。



井田先生30回目の全国大会

吹奏楽部 保護者会

原 啓子

三年連続で全国大会に出場した次の年はコンクールに参加できない制度が適用されたのが去年だったため、今年は久しぶりの緊張感を味わいながらの演奏となりました。演奏するのは子どもたちです。親に何ができるというわけではありませんが、一人でも欠けると四高の音色を出すことができなくなります。親は体調管理と励ましのまなざしで子どもたちの多少のわがママを許すことが仕事でしょうか。

結果は全国大会で最高の演奏を名古屋に響かせ、金賞に輝くことができました。たくさんの方々の応援があつてのことです。ありがとうございました。



校長先生も応援にかけつけてくれました



# 卒業生インタビュー

## 各界で活躍している卒業生を紹介

オリックス  
バッファローズ 捕手 伏見 寅威 さん 43期卒業

昨年の田代選手に続き今年も四高卒業生からプロ野球選手の誕生です。東海大四から東海大学を経てドラフト3位でのプロ入り。既に注目の集まる伏見選手がご多忙中取材に応じてくださいました。

### Q 四高時代は・・・

望星塾に入り野球中心の生活でした。はじめは両親と離れて寂しかったです。塾の生活では先輩と同室で、最初のうちは自分の居場所がありませんでした。クラスの中では常に中心人物でした。なかなか決まらないことが自分の一言で決まり、大事なことのいつも中心にいました。その反面騒ぐのも一番で、時には空気が読めずに先生に叱られることもありました。



### Q いつからプロを目指しましたか？

小学校の時からですが、はっきり意識したのは高校2年生で新聞の取材を受けたのをきっかけに強く思うようになりました。

### Q 東海大学の4年間は・・・

高校生活と違いあまり上下関係を意識せずに自分の野球が出来ました。みんなでお酒を飲んだり楽しい大学生活でした。

〈伏見選手を見守ってきた方からも取材させていただきました。〉

お母さん・・・プロ野球の選手になるという大きな夢をかなえて本当に嬉しい気持ちでいっぱいですが、自分から離れていくような寂しい気持ちもあります。

大脇監督・・・非常にコミュニケーション能力の高い選手なので2年で異例の副主将に、3年で主将を任せ、立派にチームをけん引してくれました。プロの世界で長く生きて行ける野球人になって欲しいです。

最後に、「オリックスでの中心選手として活躍する姿はもちろん、大学時代にも着用しJAPANのユニフォーム姿をぜひプロでも見たいです」とお伝えすると、「もちろん目指します」と力強い答えが返ってきました。これからの伏見選手の活躍が本当に楽しみです。

競輪学校入学 たはら ひろあき  
田原 宥明 さん 43期卒業

冬は雪に閉ざされ、屋外競技には厳しい環境の北海道ですが、今年、43期卒業生の田原宥明君が日本競輪学校に合格したという、うれしいニュースが届きました。北海道からは実に四年ぶりの快挙です。競輪学校は、プロの登竜門。本年度の合格者はわずか35名という、倍率10.5倍の大変な難関を突破しての合格です。

### Q どんな高校生でしたか？

ごく普通が目立たない生徒でした。中等部に入学してから6年間、バスケット部に所属していました。部活動の練習は厳しかったけれども、おかげで基礎体力が付き、かけがえのない仲間とも出会えました。

### Q プロの競輪選手になろうと思ったのはいつ？きっかけは？

高校の時、整骨院の先生に「とても骨太で、競輪向きの恵まれた体質なのに」と、通院のたび惜しまれたのが、プロの競輪選手を意識するきっかけになり、高校3年生で今の師匠に弟子入りしました。

### Q 本格的な練習を始めたのはそれからですか？

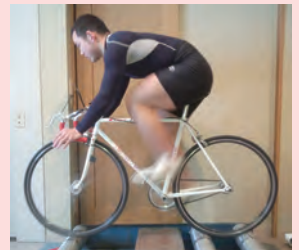
東海大学体育学部進学と同時に、師匠の紹介で湘南の平塚競輪場の方にお世話になることになりました。それまでは競技自転車に乗ったこともなく、何も分からないまま始めた自転車の練習は予想以上にハードなものでした。

### Q 大学3年の時、湘南キャンパスから札幌キャンパスに転学したそうですが？

競輪学校の規則により、自分は札幌の師匠の元に戻る必要がありました。2年でキャンパスを変わることには葛藤がなかったわけではありませんが、プロになる夢を叶えるためにはやむを得ない選択でした。東海大学に転学というシステムがあったからこそできた対応です。

### Q 自転車を始めてから一番苦しかったのは？

毎日朝4時に起床して競輪場と大学キャンパスを往復する、ひたすら練習に明け暮れた湘南校舎時代の2年間は、一番きつかったです。正直、くじけそうになったこともありましたが「お世話になった人たちに応えるためにも、絶対プロになる!」という強い思いが自分を支えてくれました。



### Q 最後に後輩たちにメッセージを

後悔しない高校生活を送ってください。何かに真剣に取り組み、一生懸命頑張るのは良いことです。自分の目標を見つけて頑張ってください。

「中学の時から今までずっと、自分は人と環境にとっても恵まれていました。いい仲間にも。素晴らしい師匠にも。支えてくれる家族にも。平塚のプロ選手の方たちは、アマチュアの自分に何の見返りも求めず面倒を見てくれました。5月になって競輪学校に行くため向こうに行ったら、アマチュア選手たちの面倒を見てあげたい。そうやって、恩を返していきたい。」

### お母さんから宥明君へ

約2500人のプロ競輪選手のトップに立つ「SSクラス」と呼ばれる9人の選手。その9人の中にいつか入って欲しい。やるからには頂点を目指して!

インタビューの間、田原くんの、「自分の環境や関わった人に対する深い感謝と思いやりの心」を何度も感じました。彼が「自分は恵まれている」と言うのなら、それは彼の徳人徳人ではないでしょうか。

## 編集後記

ラベンダー通信も創刊から6号目=6年目となりました。創刊号から広報委員会に参加させていただき私もこの春、息子の卒業で最後となります。参加目的が「息子の学校での様子が見たい!」だけだった私ですが、この6年間で沢山の皆様との交流を持つことが出来楽しく参加させていただきました。

ラベンダー通信は、保護者の視点から生徒のみなさんのがんばりや、その生徒を支える皆様の活動や支援を紹介しています。しかし昨年、男子バレー部監督の櫻田義人先生がご逝去されるという衝撃的で悲しい出来事がありました。私も過去に春高を制する東海大四の放送を見て感動した記憶があり、コート脇にはいつも櫻田先生が映っていました。「東海大四高校、名将、櫻田義人監督」と常にテレビ放送で紹介されています。息子が入学するまでは東海大四は「バレーボールの強い高校」という印象でした。

今回、PTA広報委員会としても櫻田先生の功績に感謝と追悼の意を込めて奥様にご協力いただき記事とさせていただきます。櫻田桂子様ありがとうございました。

東海大四は、部活動が盛んな学校です。そしてそこには顧問の先生・指導者・保護者など多くの人々が関わり生徒への深い愛情を持ってサポートしてくださっています。ラベンダー通信で紹介させていただいた記事をきっかけに、生徒のみなさんが感謝の気持ちと未来への希望を見つけて切磋琢磨していただけることを願って!

PTA広報委員会 鈴木 富美枝  
編集スタッフ / 広報委員一同  
印刷 / 株式会社エーシーピー

ホームページ <http://www.tokai.ed.jp/daiyon/>